

第2章

東京の将来像

【都市戦略1】 成熟都市・東京の強みを生かした大会の成功

2020年

東京の姿

- 選手の能力を最大限に引き出すとともに、世界中から訪れる観客が快適に観戦できる安全・安心な環境が整い、大会が成功を収めている。
- 競技会場周辺等が無電柱化とバリアフリー化が一体で進み、円滑な移動環境が確保されている。
- 多様な主体が連携・協働して多言語対応に取り組み、外国人にとって円滑な移動環境や快適な滞在環境が整備されている。
- 身近な場で、誰もが生涯を通じてスポーツを楽しんでいる。

政策目標

社会や都民生活の指標・状況

- ✦ 世界中から訪れるアスリートや観客にとって最高の環境を実現
- ✦ 全公立学校、私立学校においてオリンピック・パラリンピック教育を展開
- ✦ 競技会場や選手村周辺等において、安全で円滑に移動できる環境を確保
- ✦ テロやサイバー攻撃等に的確に対応する危機管理体制を強化
- ✦ 都民のスポーツ実施率 世界トップレベル 70%を達成

主な取組の到達目標

- 国内外から訪れる人々の移動環境の充実
 - ・ 競技会場周辺等の道路のバリアフリー化・無電柱化完了
- 多言語対応
 - ・ 移動環境、飲食店、宿泊施設等において案内表示等の整備促進
 - ・ 全都立・公社 14 病院で多言語診療体制を整備
- 民間防犯カメラの活用によるテロ等の大規模災害への対応
 - ・ 被害現場の状況を把握できる「非常時映像伝送システム」の本運用
- 働き盛り・子育て世代のスポーツ機会を創出
 - ・ 東京スポーツ推進企業の推奨事例数 50 件
 - ・ 子育て世代向けスポーツ教室等の実施 全地域スポーツクラブ

2024年頃

東京の姿

- 大会開催後も、大会関連施設がレガシーとして、有効に活用されている。
- バリアフリー化が一層進展し、誰もが円滑に移動できる環境が整っている。
- 多言語対応の取組が都市全体に広がり、東京に滞在する外国人の言葉のバリアフリー環境が整備されている。
- より多くの人々がライフスタイルに応じてスポーツに親しむとともに、障害のある人もない人も、共にスポーツを楽しめる都市に発展している。

政策目標

社会や都民生活の指標・状況

- ✦ 競技施設で各種イベント等が開催されるとともに、選手村については、多様な人々が快適に暮らせる豊かな都市空間となるなど、大会関連施設の後利用を促進
- ✦ 主要な生活圏において、安全で円滑に移動できる環境を確保
- ✦ 都民のライフスタイルにスポーツが定着 スポーツ実施率 70%を維持

主な取組の到達目標

- 交通機関や公共空間のバリアフリー化の着実な推進
 - ・ 駅、生活関連施設等を結ぶ都道の新たな整備路線のバリアフリー化 約 90 km
- 誰もがスポーツに親しむ機会の更なる拡充
 - ・ 障害のある人とない人が、共に参加できる地域スポーツクラブの拡大 全区市町村
 - ・ ウォーキング等しやすい通路の整備 河川沿い 43 km

【都市戦略2】 高度に発達した利用者本位の都市インフラを備えた都市の実現

2020年

東京の姿

- 三環状道路の約9割が開通するなど、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を支える道路交通ネットワークが形成されている。
- 首都圏空港の容量拡大や空港アクセスの改善により、外国人をはじめとする東京を訪れる人々の利便性が高まっている。
- 鉄道やバスなどのバリアフリー化やシームレス化が進むとともに、自転車の活用促進や歩行者に配慮した都市空間の創出など、国際都市・東京にふさわしい、利用者本位の交通体系が実現されている。

政策目標

社会や都民生活の指標・状況

- ✦ 首都圏の人や物の流れを支える広域交通インフラの整備が進展
- ✦ 関越道から東名高速間の所要時間が5分の1に短縮
(大泉10) (東京10) (60分(環8)→12分(外環))
- ✦ 東京を訪れる人々の交通利便性が向上

主な取組の到達目標

- 三環状道路等の整備
 - ・中央環状線の全線開通(2014年度)
 - ・外環道の関越道から東名高速間の開通(2020年)
 - ・臨港道路南北線及び接続道路完成(2020年)
- 多くの人が集まる地区で歩行者に配慮した新たな都市空間を創出
- 自転車推奨ルートの整備と併せて自転車走行空間を倍増(累計264km)
- 東京の成長を支え、国際競争力を高める交通の実現
 - ・虎ノ門地区の交通結節機能を強化する地下鉄新駅やバスターミナルの整備
 - ・都心と臨海副都心を結ぶBRTを早期に導入
 - ・羽田空港へのアクセスを強化する空港直行バスの充実
- 鉄道やバスなど多様な交通手段を有機的につなぐシームレスな乗継を実現

2024年頃

東京の姿

- 首都圏の広域的な道路ネットワークの整備が進展し、東京の最大の弱点である渋滞が大きく改善するとともに、羽田空港の機能強化や東京港の再構築により、陸・海・空の結び付きがより強まり、国際競争力が向上している。
- 東京の持続可能な発展を支える、人と環境にやさしい交通体系が実現され、東京が世界一便利で快適な都市となっている。

政策目標

社会や都民生活の指標・状況

- ✦ 年間1億人を超える首都圏空港の航空旅客需要に対応
- ✦ 東京港の機能が強化され、安定的で低コストな物流サービスが実現
- ✦ 子供からお年寄りまで誰もが安心して快適に利用できる交通体系を実現

主な取組の到達目標

- 広域的な道路ネットワークの形成
 - ・区部環状・放射道路、多摩南北道路のおおむね完成、多摩東西道路の約8割完成、連続立体交差事業により累計446か所の踏切を除却
- 東京港の再構築
 - ・東京港のコンテナ取扱個数 610万TEUに対応(2012年度比1.3倍)
- 首都圏の空港機能強化
 - ・空港容量の更なる拡大(2030年代)
- 歩行者に配慮した都市空間の更なる創出や自転車推奨ルートの拡大
- 舟運の更なる利活用や他の交通機関との連携強化

【都市戦略3】 日本人のこころと東京の魅力の発信

2020年

2024年頃

東京の姿

- 多くの都民がボランティアとして2020年大会を支えることで、東京・日本の持つおもてなしの精神が全世界に発信されている。
- 旅行地としての「東京ブランド」の確立、東京の多彩な魅力の開発・発信、言語や通信等でのバリアフリーの推進により、多くの外国人旅行者が訪れ、東京での快適な滞在を楽しんでいる。
- 東京のいたるところで多彩な文化プログラムが展開されている。

政策目標

社会や都民生活の指標・状況

- ✦ 多くの都民がボランティアとして参加できる2020年大会の実現
- ✦ 訪都外国人旅行者数 年間1,500万人
- ✦ 訪都外国人旅行者の無料Wi-Fi利用環境に関する満足度 90%以上
- ✦ 丸の内地区等でシャゼリゼプロジェクトを推進し、新たなにぎわいを創出
- ✦ 芸術文化拠点の魅力向上 上野等で実施

主な取組の到達目標

- 大会開催期間中、東京を訪れる人々を支える都市ボランティアの育成 1万人（空港・主要な駅等で、観光・交通・会場案内等のサービスを提供）
- 各種ボランティアの育成
観光ボランティア3,000人、外国人おもてなし語学ボランティア3万5千人
- クルーズ客船誘致 入港113回/年、利用客21万人/年を達成

東京の姿

- 東京の持つホスピタリティや各地域の魅力が広く認知されるとともに、ボランティア文化が東京に根付くなどおもてなしの気運が広く浸透し、世界有数の観光都市・東京が実現している。
- 東京の強みを生かした誘致活動により、MICE開催都市としての揺るぎないプレゼンスが確立している。
- 文化プログラムのレガシーが継承され、誰もが身近に芸術文化に触れられる、世界一の文化都市へと成長している。

政策目標

社会や都民生活の指標・状況

- ✦ 大会を契機に都民がボランティアとして各分野で活躍し、ボランティア文化が定着
- ✦ 訪都外国人旅行者数 年間1,800万人
- ✦ 国際会議の開催件数 世界トップスリーに入る年間330件を達成
- ✦ 芸術文化拠点の魅力向上 都内各地で展開

主な取組の到達目標

- ボランティア行動者率 40.0%を達成
- クルーズ客船誘致 入港280回/年、利用客50.2万人/年を達成（2028年）
- 隅田川における恒常的なにぎわい創出を4エリア（浅草、両国、佃・越中島、築地）で推進